博物館実習

二〇〇四年八月十七日～二十二日

昨年に引き続き博物館実習生の受け入れをしました。本年度の実習生は東北学院大学文学部史学科の3年生3名です。実習生の感想の一部を紹介します。

今野良隆

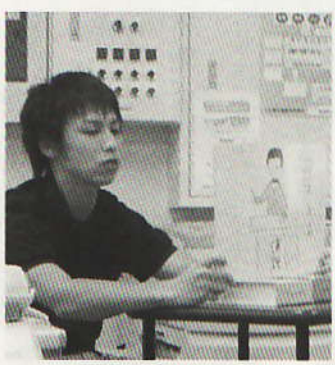
六日間の博物館実習は、短いながらも充実した日々だった。私にとって、この博物館実習は学芸員資格のためというだけではなく、日頃知ることの出来ない博物館の裏側を体験することで、それまでとは違った視点を身につけることが出来るのではという思いもあった。

大学の講義から、博物館はどちらかといえばそれ自体で成り立っていると考えていた。ところが実際に実習を受けていくにつれ、博物館は単独で成り立っているわけではなく、市町村の教育委員会や住民など地域社会と関わりながら成り立っていることを実感した。

千葉晴貴

博物館実習を振り返ってみると、この一週間はあっという間だった。短い期間だったが、博物館運営や展示環境などについて説明を受けたり、展示をわかりやすく説明する方法、常設展示室の入替え作業、企画展などを自分で考え、発表したりと様々なことを体験した。実際にやってみて、思った以上に難しいことがわかった。また博物館がおかれている厳しい状況というものも知った。

日　程	内　容
8月17日	施設運営説明 展示説明 オリエンテーション （教育委員会）
8月18日	施設見学 ・緒絶の館　市民ギャラリー ・ササニシキ資料館 環境管理説明
8月19日	生涯学習課　文化財係担当
8月20日	受付体験 キャプション作成 『記念館を解り易くする為にはどうしたら良いか？』考える
8月21日	常設展示室の展示入替え作業
8月22日	企画運営説明企画計画



守屋美穂

六日間の博物館実習を終えて特に印象に残ったのは、劣化している史料を保護する為に行った常設展示室の入替え作業である。入替えする史料を数点選び、それに代わるものを私たち実習生が選定し、キャプション作成も行った。私は「アカデミズムの人・吉野作造」というコーナーの中の「歴史家としての吉野」を紹介している箇所に注目した。大正期、第一次世界大戦をはじめ、大きく変化しつつあった世界に対し、吉野が歴史家という視点でどのように現代史をとらえていたのか、歴史を学んでいる者としてとても興味があった。

学芸員は資料収集、企画、展示など多くの作業をやらなければならない。学芸員の仕事については大学の講義でも習っているが、実際に自分で経験してみてその広さを改めて感じた。

井上ひさし講演会

二〇〇四年九月二四日（金）

当館名誉館長による恒例の講座が開催されました。

今回は超過密スケジュールの合間をぬい開催二週間前に日時が決定されたにもかかわらず、一六四名の井上ファンがかけつけてくれました。

講演会では、政治の目的は民衆の利益幸福を実現させることと、政治の最終的監督は民衆が行なうべきだとする吉野の「民本主義」の精神にふれ、日本国憲法の素晴らしさを強調、そして改憲論盛んななかで憲法九条を守るべきだと講演しました。

また、身近な地域を大切にし、目の前の幸福を追求することが社会全体の幸福につながっていくこと、国民主権の現在、国民の持つ責任の重さを自覚するよううながしました。

プロ野球の労使交渉問題や仙台拠点をめざす楽天とライブドアの話題など、ユーモアを交えて時事問題にもふれ、わかりやすく、楽しく話をしながら吉野の精神や主張を現代風に言い換えてみせる井上流講話は終始会場をわかせていました。

（吉野先生を記念する会・古川市教育委員会共催）

来館者の方々にも政治学者としてだけではない吉野作造の一面もぜひ見てもらえたらと思う。